

平成25年度 岡崎保育園 事業報告

今年度、新園舎になり1年を迎えました。入園希望者は、低年齢児が多く、入所充足率年間118% 入園児童数年度末は、142名でした。(資料参照)湖西市は、他に新園を2園(こども園、保育園)開園しましたが、定員には満たされず、また、公立の保育園も定員に満たってはいません。また、公立幼稚園においては、6施設全て定員割れです。(1,330人定員 823人入園)

その中で、当園を希望する人数は、産休明けの保育園入所希望児が、実際の希望の時期に入園できない状況や、一時預かりや休日保育事業等の人数の増加がみられました。湖西市の出生率(合計特殊出生率 全国平均1.37%湖西市1.47%)が、変わらない状況で、働きたい、保育園に入所させたい様子がうかがえます。来年度は、近隣の保育園が増改築をしますが、定員増ではありません。これらの様子から、今後、地域のニーズの把握と子ども子育て支援制度に向けての行政の考えを把握し、地域に根ざした子育て支援の輪を、当園が率先してできるようにしていきたいと思えます。

また、事業の充実と合わせ、職員同士が、日々の保育に追われ、余裕がなく話し合いが少なかったようにも感じます。中長期計画が策定されたので、今後の課題を職員と一緒に目的意識を持って、地域の施設として組織力を高め、職場が活性化するように取り組んでいきます。

法人の基本方針 事業計画の概要・方針	重点目標	取り組み内容	事業報告
<p>①保育指針に沿った保育の実践</p> <p>保育指針を十分に理解し、保育指針に添った担当業務のあり方を把握したうえで、実践し振りかえりを行う。</p> <p>各担当組織、職員個々が目標を持って行動し、担当組織や自分の担当業務の振り返りを行う。</p> <p>(目標による管理)</p>	<p>1. 日々の保育の中で保育の質を高め合う。</p> <p><子どものつながり></p> <p>(h25より保育園機関が教育委員会へ移行子育て支援課→幼児教育課)</p>	<p>★一人ひとりの子どもの育ちを「できた」「できない」だけでとらえないで、その子の思い、経験、過程を大切ににとらえていく。</p> <p>・結果だけ考えるのではなく、保育の過程を大切にしながら、保育実践や子どもの記録の方法を検討する。</p> <p>・子どもの思いに耳を傾け、子どもの姿を読み取る方法を学び合う。</p> <p>・保育過程から、年齢発達を踏まえた一人ひとりの個人計画をもつ保育をする。</p> <p>★各クラスの保育の見える化、小人数グループ保育</p> <p>★保育目標に添って各クラスのテーマを掲げ、研鑽機会の提供による成長支援を行う。</p> <p>0歳児「手遊び触れ合い遊びでスキップを深めよう」</p> <p>1歳児「遊びを通して家庭とつながろう」</p> <p>2歳児「絵本でつながる子育て支援」</p> <p>幼児(3歳児、4歳児、5歳児)</p> <p>「地域との関わり方から生まれるもの ～手をつなごう～」</p>	<p>・保育の中での活動を研修テーマにして、活動報告をする。</p> <p>・10月19日園内研修で中間発表、評価を行う。</p> <p>・平成26年1月 聖隷学会発表</p> <p>・平成26年2月 湖西保育士会発表</p> <p>・平成26年3月 保護者会で報告</p> <p>*保育は、人事交流や研修、実際に発表評価することで、やりっ放しではなく、振り返りが出来るようになってきた。今後、評価の方法は、勉強が必要である。</p> <p>*保育の記録について学ぶ『エピソード記述の研修』を行った。保育についての子どもの心に寄り添う保育の学びができた。</p>
<p>②国、市の方針、環境変化に応じた園の経営</p> <p>国の「子ども・子育て新システム」市の保育対策等への適合をはかる。地域の利用者の保育ニーズ、学童保育ニーズへ対応する。保育所担当行政をはじめ関係機関との連携を深める。将来、認定こども園となることを前提にして、その実現のため検討をする</p>	<p>2. 事業成長のための将来的な見通しを持つ。</p> <p><行政のつながり></p> <p>(h25より保育園機関が教育委員会へ移行子育て支援課→幼児教育課)</p>	<p>★会議の充実をはかる。</p> <p>・会議、研修等で得た情報は職員に啓蒙する。</p> <p>・職員会議や保護者への説明を計画性に行う。</p> <p>★保護者アンケート 課題の検討 見直し</p> <p>★学童との交流</p> <p>夏休み期間中に、学童と一緒に遊び子ども同士の中からルールを覚えたり、流しそうめんをしたり楽しむ。</p>	<p>・子育て会議、市の会議で10月承認され会議が実施されたが、湖西市の情報があまり入ってこない。</p> <p>・夏休み学童と交流し、お世話をしたりされたりしてお互いの心のつながりを持つことができた。</p> <p>・夏のボランティア36人受け入れを行う。</p> <p>*園内の利用者ニーズには、応じることが出来るが、地域や社会の中での関わりになると、意識が薄く、担当任せになると、皆さんの大人が興味を持ったり、意見を述べたりすることが必要。また、そのような環境設定や伝達が足りていない。</p>
<p>③保護者への積極的な子育て支援</p>	<p>3. 利用者(保護者)と子どもを中</p>	<p>★子どもの姿を伝え合い、保護者とコミュニケーションをはかり、信頼関係を築く。</p>	<p>・6月保育参加(毎日2~4人の保護者)子どもたちの姿を見てもらったり、一緒に参</p>

<p>保護者への支援、保護者との連携強化する。地域への子育て支援メニューを充実する。保護者も保育に参加し体験することにより、保育園への理解と保育内容の理解を深める。地域子育て支援の実施。直接の利用者ではない地域子育てにかかわるための企画を継続的に行う。</p>	<p>心にした子育てをする。地域子育て支援の相談出来る場所、遊ぶ場所を提供する。(地域の中で子育て支援の拠点となる)</p> <p><保護者のつながり> <子育てのつながり></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加 6月に実施、午後グループ懇談会や個人面談で保護者と意見交換をし、情報交換を行う。 ・行事で親子の関わりを伝えていく。もちつきや豆まき、ひな祭りなどの日本の行事に参加してもらい一緒に触れあいの機会をもつ。(お琴や声楽の演奏会) ・野菜を育てる ★子育て支援びよびよクラブ活動 ・子育ての相談や、同年齢と遊びの機会を設け保護者同士の輪を広げる。 ・離乳食教室 栄養相談 園庭解放 ・親子で保育体験参加 ・芋掘り、タマネギなど畑での収穫体験 	<p>加し、午後は、職員と面談話し合いをして、保護者と話をすることができた。(102人の保護者が参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親から母親への輪が広がりコミュニケーションの場となる。 <p>*研修を通して職員の気づきができ、保護者とのコミュニケーションもとれやすくなり、保護者対応も丁寧かつ真剣に子育て相談につながっている。但し、人によりまだバラバラの点があったり、今後の課題である。</p> <p>*地域や子育て支援に意識が生まれ、保育園の園児と一緒に関わりを持ち、びよびよクラブの活動が広がった。共に子育てをするということが、理念の子どもの育ちを支えることに結びついていけていると考える。</p>
<p>④保育環境の整備</p> <p>子どもたちの安全と衛生的な環境、危機管理体制の確立。災害対策、日々の保育事故、食事や衛生管理等。修繕や備品の購入は年次を追って、計画的に進める。高齢者等、地域の関係者との交流を深め、法人として地域社会に貢献する。</p>	<p>4. 子どもの過ごしやすい環境を常に考え、たくさんの人とかかわり生活体験をする。園の存在や目的をアピールすると共に、連携を図って、地域の育児力を高める役割を担う。</p> <p><地域のつながり></p>	<ul style="list-style-type: none"> ★備品管理 ★職員の役割と連携の確立 ・マニュアルの見直しと保護者へ情報提供 ・事故ヒヤリハットの確認検証 ★人との関わり経験をしていく中で、感謝の気持ちに触れ思いやり保育につなげてく。 ・自治会の触れあい会 年長いきいきサロンへ参加 ・地域のお祭りや行事に鼓隊参加 ・専門講師の指導を保育の中に考え、つながりのある保育を継続する。 ★地域の活動と一緒に参加 ひまわりの種まき 小さな親切運動 ホテルの放流 6月にほたるの里で成長をみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の特別養護老人ホーム光湖苑との交流ができた。(6~10月 週3日 各クラス交替)人とふれあうことで優しさがうまれ相手を気遣う気持ちができる。保護者も喜んだ。 ・地域の人とひまわりを植えて交流、カレーパーティに招待し交流をもった。 ・学芸高校と絵を通しての触れ合いができた。 <p>*地域の交流を通じて人との関わりを持つことができ、体験活動(畑収穫体験、高校生と絵画、種まき等)が、こどもたちと共にできた。危機管理体制や、災害対策は、連携の部分やマニュアルや組織作りがまだ不十分である。</p>
<p>⑤働きやすい環境づくり</p> <p>職員の確保・育成倫理性、組織性、専門性をもつ職員の育成を行う。新たな研修計画の策定。パート職員も含めたOJTの強化、プリセプター方式による新人研修等。自ら学ぶ姿勢を支援する。個々の職員のキャリアアップを目標にした人事交流を行う。積極的な新規採用活動の実施。</p>	<p>5. 職員一人ひとりが意識をして、働きやすい職場環境を目指す。</p> <p><職員のつながり></p>	<ul style="list-style-type: none"> ★個人目標をもち、研修に参加する。 ★業務の省力化を心掛け、職員間での情報の共有化をはかる ・研修報告会を行い、学びを共有する。 ・自己チェックと評価 ・担当業務の内容や当番の見直しを行い、みんなでの共通意識をもち、それぞれに役割を果たす ・市野との交流、栄養士情報交換 ・感染症救急研修 ・経験年数に応じた保育研修と実践 ★実習にきた学生の教員と現状把握など情報交換をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標管理シートで目標と仕事の振り返りを行う。チューターからコメントをもらったり相談相手を作ることで職員同士の信頼関係を作っている。 <p>*市野と進保育園との人事交流 一人一週間ずつ、市野との人事交流は、自分達の保育を見直す機会となり、パート非常勤とグループ会議につなげた。自己評価をもっと活用していきたい。</p>
<p>⑥法人組織の強化</p> <p>組織のガバナンスの確立する。本部事務の確立</p>	<p>6. 本部事務の内容を年間通じて分かりやすくする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な管理会議 ・外部監査の実施と評価 ・監査対応 ・必要な研修参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修の実施 <p>*監査の継続ができています。新会計の方向性も決まり、実践に活かしていきたい。法</p>

理事監事の研修参加。 コンプライアンス経営の 実践。(外部監査、監事監 査とその対応)		・両園の事務仕事の現状把握と情報交換	人の事務仕事が確立されてきている。
⑦経営の把握と無駄の排 除 経営状況の適切な把握と 中期事業計画の策定。(人 員と設備備品の予算根拠 の明確化とその実行管理)	7. 保育の見える 化、強みや課題を 明確にする。	★節電節約 使用状況と昨年比をグラフにして、自分 たちができる節電を考え実行する。 ・広告の白い紙の利用 ・裏紙使用 ・トイレの電源 ★管理者の経営状況の把握	・中長期策定会議(職員と策定会議)を行 う。 *中長期の事業計画策定 経営状況の把握と共に、今後の園の取り 組みをあげていきたい。 *消費税アップについて園全体に働きか けをしていきたいと思う。
⑧タイムリーな情報発信 常に利用者、地域社会に情 報を発信する (ホームページ上にプロ グによる情報発信等。)	8. 保育の実践に 込められた願いの 発信をする。	★エピソード記録を全員に書いてもらい、みんなで読 んで振り返りをし、園便りで保護者に伝えたりしてい る ・おかほだよりで保育内容や思いを伝えていく ・ホームページの充実 ・地域広告の受け入れ ・丁寧な説明と心配り ★HPの更新	・エピソード記録に他者からの気づきを 記入してもらう。 ・HP委員会立ち上げ 職員自身が、情報発信を意識して動く 体制づくりがまだ出来ていない。
⑨環境を守る取り組み 保育の中にも職員の行動 にも環境問題を考えた対 応をする ものを大切にする。 動・植物を大切にする。	9. 食育やエコ活 動を通じて、生き ることの基本を学 ぶ。 くしぜんと なかよしになる>	★エコ問題の取り組み ★花壇の苗うえ 雨水を使用した水やり ★林の利用をみんなで考える ★砂場の木陰造り	・雨水で花や野菜の水やり ・砂場のすだれやグリーンカーテンの実 施 森の利用方法が定まっていない。

	園長	主任	保育士	栄養士	調理員	事務	学童	計	
正規	1	1	15	1	1	1		20	栄養士出向戻る・市野異動
非常勤			4					4	
パート			6		3	1	4	14	保育士臨時2名・学童より
計	1	1	25	1	4	2	4	38	

★平成25年度 意見・苦情・要望について

4月・1件	3歳児保護者 (連絡帳より)	保育室の中でムカデをみつけました。子どもが生活している部屋にこんなものをつけるのは、すごくショックでした。特に昼寝をするので大変危険を感じます。
	<対応・回答>	暖くなると虫も出てきて、バリアフリーになって入ってきやすいですが網戸の開閉や園内消毒の定期的に行うこと、害虫には職員全員で注意し、園児に被害がないように心掛けていくことをお伝えし、その後の申し出はなかった。
7月・1件	3歳児保護者 (連絡帳より)	登園時、駐車場スペース外に、駐車される方がいます。一部の方が守れていません。再度、確認して頂き、対処してほしい。
	<対応・回答>	お便り、掲示等で保護者に再度呼びかけ、混雑時は、声をかけていくようにした。
1月・1件	学童保護者	学童利用の連絡が、伝わってなかったため、学校の迎え時、本人は、学童に行くと言ったが、

口頭	車に乗せず、本人も自宅に帰宅。母親が、なぜ預からなかったか、母親に確認連絡の電話がなかったかと怒ってきた。
<対応・回答>	謝罪 保育園からの学童への伝達がメモであったため気付かなかった。伝達方法と、確認電話を必ず行うように学童指導員に徹底した。